

中学生の「税についての作文」

大川市長賞

税金で守られている私たちの毎日

大川市立大川桐英中学校

三年 山口 夏季

私は最近、租税教室を受け、税務署の方二人にお話をしていたきました。そこで、

「税金がなかったら、私たちの暮らしはどうなるのでしょうか。」

という問いが出されました。私は、

「少し不便になるだけで、そんなに大したことにはならないだろう。」

と軽く考えていました。しかし、話を聴いていくにつれ、それは全く違っていったことに気づきました。

例えば、私たちにとって一番身近な学校です。当たり前のように無料で配布される教科書や、冷暖房の充実、図書室の本なども税金で賄われていると知りました。もし、税金がなかったら、全て親にお金の負担がかかり、学校に通えなくなる子も出てくるとわかりました。また、年々暑くなっているこの状況で、冷房がないまま授業を受けることを考えると、集中できないうえ、暑くて倒れてしまう人も出てくると予想できます。学校で倒れてしまつて救急車を呼ぼうとしても、

税金がない世界だと多くのお金を払わなければならなかったり、すぐに駆けつけてくれなかったりします。消防や警察も同様です。これらの公共サービスは当たり前のように見えて、実は税金のおかげで利用できる体制が整っているのだと改めて感じました。

また、私の祖母は高齢者で病院に通うことも多くありますが、医療費の自己負担は少ないです。これも、高齢者を支える社会保障に税金が使われているからです。年金や介護、福祉などのサービスが整うことで、年をとっても安心して暮らせる社会が創り上げられる仕組みつて素敵だと思いました。

このように、税金とは、みんなのために役立つ活動であり、社会での助け合いの制度だとわかりました。また、税金の使い道は選挙で選ばれた代表の人が決めます。だからこそ選挙も大切にすべきだと思いました。

これから働くようになったら、社会の一員としてきちんと納税の義務を果たし、十八歳になったら、私たちが幸せに過ごせるように選挙へ必ず行きたいです。誰が代表になったら明るい未来が待っているのかを見極めて、大切な一票を投票したいです。税金について関心を持ち続け、感謝の気持ちを忘れずに過ごしていきたいです。

